

## 県を代表し全国の舞台に 市内剣道クラブの選手たちが出場

3月25日から27日にかけて行われた第45回全国スポーツ少年団剣道交流大会に、県予選を勝ち抜いた市内剣道クラブの選手たちが出場しました。県予選の小学生団体戦で優勝した師岡壱太さん、河田侑磨さん、大泉彩葉さん、遠藤羽雪さん、大泉彪之介さんと、中学生個人戦で準優勝した佐藤悠大さんが臨み、団体戦はベスト16、個人戦は予選敗退となりました。大会を振り返り、指導者の小沼さんは「全国大会の舞台に立ち、選手たちは自信がついた。小学生団体戦についての敢闘賞は、チーム一丸となれた証」と話しました。



茨城県代表として出場した選手たち



## トップスイマーを目指して 市内スイムクラブが全国大会に出場

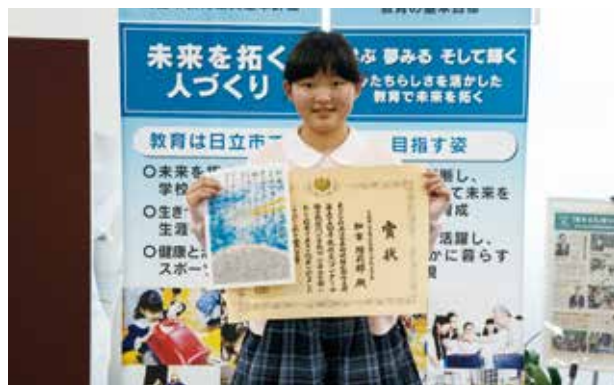
3月26日から30日にかけて行われた第45回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会に、市内にあるスイムクラブフィットネスの選手たちが出場しました（結果は下表のとおり）。同クラブの渡邊菜月さんは日本代表選手団にも選出されるなど、彼女たちの今後の活躍が期待されます。

■ 渡邊菜月さん（女子200m背泳ぎ）	予選敗退
■ 黒澤天さん（男子50m・100m平泳ぎ）	予選敗退
■ 岡田圭矢さん（男子50mバタフライ）	予選敗退
■ 出野有紗さん（女子200mバタフライ）	8位入賞

## アイデアを磨き続ける チーム八千代商事が県知事賞を受賞

県主催の「県北ビジネスチャレンジプログラムアイデアソン」の最終報告会で木材販売業を営む株式会社八千代商事（若葉町）が最高賞である県知事賞を受賞しました。チームのメンバーとともに半年間練り上げた、県産木材を活用した商品開発や森林撮影イベントなどの3つの事業が評価されました。チームリーダーの福地美喜さんは「日立の森の間伐材を活用することで林業に光を当て、地元林業に貢献していきたい」と語りました。

\*アイデアソン＝決められた時間の中でアイデアを出しあい、より質の高いアイデアにまとめていく考え方



## 絵手紙日本一&名誉博士認定 日高小の加古さんが2つの快挙

日高小学校6年生の加古瑠莉那さんが、日本郵便㈱が主催する第55回手紙作文コンクール絵手紙部門・小学校4～6年生の部で最高賞となる文部科学大臣賞を受賞しました。また、市のひたち大好き博士事業\*で、初の名誉博士の認定を受け、教育長から表彰を受けました。2つの快挙を成し遂げた加古さんは、「絵手紙に描いた市の職業探検少年団などでは普段できない楽しい経験ができた。これからもさまざまな経験をしていきたい」と喜びを語りました。

\*ひたち大好き博士事業＝施設の見学や地域のイベントへの参加などでポイントが貯まり、合計ポイントにより、博士（初級、中級、上級、名誉）に認定する事業

## 市内の4事業者が受賞 いばらきデザインセレクション 2022

いばらきデザインセレクション 2022において、市内の4つの事業者が選定されました。知事選定を受賞した下深荻町にあるYOKIの椎名 巧さんは、「私にとって道具はとても大切なもの。育った日立市のもの、茨城県のものでつくった道具を使い作品をつくれる日々が感動的で幸せです」と製品への想いを語りました。

結果	事業者・受賞内容
知事選定	YOKI 工芸用刃物
選定	鍛冶工房 studio ZWEI フライパンとグラタン皿
選定	おおみかアートプロジェクト 星と海の芸術祭
選定	小松水産株式会社・茨城オトナ女子会 IBARAKI HOLIC -いばらきほりっく-久慈浜しらすプロジェクト



YOKI



鍛冶工房 studio ZWEI



おおみかアートプロジェクト



小松水産株式会社・茨城オトナ女子会

## まちづくりへ貢献 寄附をいただきました

安全安心のまちづくりや子どもたちの教育環境の整備などのため、多くの企業や団体から寄附がありました。寄贈者と寄贈品は下表のとおりです。

寄贈者	寄贈品
第一生命保険㈱	防災ヘルプマークベスト (400着)
㈱茨城環境企業	記念図書館こどもとしょじつ整備のための寄附金(整備品:絵本ラック6台、絵本立て4台、木製書架1台)
日立市防災協会	防災号(トヨタ・ヤリスクロス)
常陽銀行日立支店	防犯ブザー (1,100個)
常陸農業協同組合・日立市多賀農業協同組合	交通安全帽子(黄色い帽子 1,157個)
日立地区交通安全協会	交通安全傘(黄色い傘 1,050個)

## を背負い世界と戦う WBC 中国代表・真砂選手が結果を報告

3月9日から21日にかけて行われた「2023 World Baseball Classic」に中国代表として出場した日立製作所野球部に所属する真砂勇介選手が、市役所を訪問し、大会の結果を報告しました。日本代表との対戦では、3番センターで出場し、2塁打を放つなど活躍を見せました。真砂選手は「言葉の壁はあったが、一つの目標に向かって野球ができたことはとても楽しく、財産になった。勝つことの難しさや重要性などをチームに還元したい」と大会を振り返りました。

